

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.59 新春号



第2回推進員研修会 (関連記事p.6)



家庭の省エネ相談所、クールチョイス相談所を実施しました
／京都環境フェスティバルにて (関連記事p.6)



再配達を減らそうをテーマにブースを出展しました
／京都環境フェスティバルにて (関連記事p.6)

contents

- 2-3 特集
2050年にCO₂排出ゼロへ
1.5℃特別報告書の持つ意味
- 4 報告します！
夏休み省エネチャレンジ2018
- 5 第8期 地球温暖化防止活動推進員
府内各地で活躍中！
- 6-7 【活動レポート】
京都環境フェスティバル2018にブース出展
しました！（12/8、9 京都パルスプラザ）
宅配便「再配達削減チャレンジ！」実施に
ついて
京都府地球温暖化防止活動推進員研修会を
開催しました
○第2回「SDGsと温暖化対策」
○第3回「推進員活動 実践事例報告会」
- 8 募集しています
第9期
京都府地球温暖化防止活動推進員



京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。



2050年にCO₂排出ゼロへ

1.5℃特別報告書の持つ意味

10月8日に、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が「1.5℃特別報告書」を発表しました。これはどのような報告書で、どのような意味を持つのでしょうか。国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長の江守正多さんに教えていただきました。

「1.5℃特別報告書」とは

2015年に国連で採択された「パリ協定」では、「世界平均気温の上昇を産業化以前と比較して2℃より十分低く抑え、さらに1.5℃未満

に抑える努力を追求する」という目標が合意されました。しかし、「1.5℃」でどれくらいの影響が出るのか、1.5℃で温暖化を止めるためにはどれだけ対策が必要なのかについて知見が不足していたため、今回

の報告書が作成されました。

報告書に書かれている「1.5℃目標」の評価をごく簡単にまとめると左下のとおりです。

1.5℃を超えるリスク

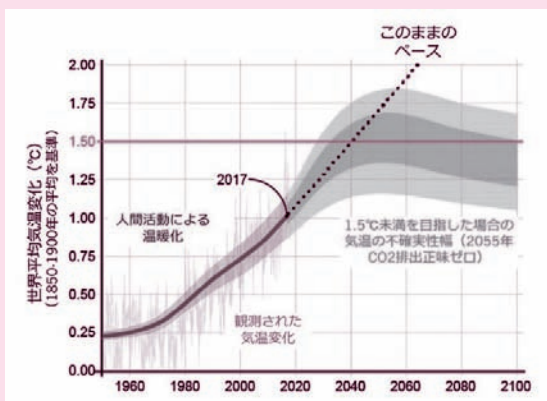
報告書では、異常気象、海面上昇、生態系、健康、食料、水資源といった様々な側面において、1.5℃温暖化すれば今よりリスクが大きくなり、2℃温暖化すればさらに大きくなることが示されています。例えば、この夏の豪雨による被害にあわれた方は、今でもすでに受け入れられない悪影響が出ていると感じておられることでしょうか。こうした方々は、現時点で既にたいへん、1.5℃だともっとたいへん、2℃だともっともっとたいへんなので、せめて1.5℃に止めてほしいという願いを持たれることと思います。

さらに深刻な悪影響を被るのは、発展途上国の貧しい人々です。異常気象は、彼の国の人々の生活基盤を奪い、生命を危機にさらします。彼らが出す温室効果ガスは、先進国に比べてわずかであるにもかかわらずです。

また、1.5℃温暖化すれば、グリーンランドの氷床が不安定化する

「1.5℃特別報告書の要点」(まとめ: 江守正多)

- 世界平均気温は産業化以前に比べて現時点で1.0℃上昇しており、このままのペースで気温上昇が続けば、**2040年前後には1.5℃**に達してしまう。
- 気候変動による悪影響のリスクは、**1.5℃温暖化した世界では現時点よりも顕著に大きくなり、2℃温暖化すればさらに大きくなる**。
- 温暖化を**1.5℃で止めるには、2050年前後には世界全体のCO₂排出量を正味でゼロ**にし、メタンなどCO₂以外の温室効果ガスの排出も大幅に削減する必要がある。



グラフ
世界平均気温の変化と1.5℃目標の関係 (IPCC SR1.5 FA1.2 に基づく)

臨界点を超える可能性があり、2℃ならばその可能性はさらに高くなります。これが起きると数百年～数千年かけて、海面は数m上昇することになります。

このような情報に接すると「できることなら、なるべく低いところで温暖化を止められるに越したことはないだろう」と思う方は多いのではないのでしょうか。

2050年にCO₂排出ゼロは可能か

では、2050年ごろまでに世界のCO₂排出量をゼロまで減らし、1.5℃で温暖化を止めるなんていうことが、本当に可能なのでしょうか。

報告書には、1.5℃未満を実現するためのシナリオが複数描かれています。シナリオが描けるということは、それは「原理的には」可能ということです。「絵に描いた餅」という言葉がありますが、少なくとも「餅の絵」を描くことは可能なのです。シナリオによれば、今後10年程度が勝負。2030年までに世界のCO₂排出量を2010年に比べて45%前後減らす必要があります。

持続可能性との「トレードオフ」と「シナジー」

報告書によれば、「1.5℃目標」を追求するための温室効果ガスの排出削減の徹底は、下手をすると持続可能な（＝みんなが幸せになる）社会づくりのための他の目標とトレードオフ（二律背反）になる可

能性があります。いわば対策の悪い副作用です。仮にエネルギーシステムへの投資のために社会保障が削減されたり、バイオ燃料の生産のために食料生産が減少したりすれば、貧困や飢餓の撲滅にはマイナスです。また、化石燃料産業は今のままでは存続できないことは明らかで、移行がうまく行かなければ多くの失業者を出すことになりかねません。こういった点に配慮して、国や国際社会は「スムーズで公正な移行」を支援する必要があります。

一方で、「1.5℃目標」が達成されれば、2℃やそれ以上に温暖化が進んだ場合と比較して、貧困・飢餓の撲滅、健康、生態系、産業活動や経済成長などの様々な面において、温暖化の悪影響が緩和されることによる持続可能な社会づくりへのプラスの効果があることは自明です。つまり、この側面においてはシナジー（相乗効果）があると言えます。

さらに、社会が持続可能であった方が1.5℃目標を追求しやすいという側面もあります。例えば大量生産・大量消費・大量廃棄が前提で、格差が大きく、国家間がいがみ合ったような状態でCO₂の排出を削減するのに比べれば、シェアリングや資源循環で経済がまわり、格差が小さく、国際協調がうまくいった状態で削減する方が、ずっとやりやすいことに間違いはありません。この側面でも「1.5℃目標」と持続可能な社会づくりはシナジーの関係にあると言えます。

以上から、持続可能性とのトレードオフをうまく緩和する政策をとることができれば、「1.5℃目標」を

目指すことと持続可能な社会を目指すこととはWin-Winの関係にあると言えます。この方向に社会を向かわせることができれば、1.5℃のシナリオという「餅の絵」を「食べる餅」にすることは可能かもしれません。

どうせならこの報告書を好機と捉えよう

「1.5℃を超えたらひどいことになるらしい」「何を我慢させられるのだろう、いくら支払わせられるのだろう」と後ろ向きにこの問題を捉えても、いいことは起こらないと私は思います。どのみち世界は持続可能な（＝みんなが幸せになる）社会の実現を目指しているのですから、「1.5℃目標」はこの取組を加速する好機だと思ったらよいのではないのでしょうか。

個人の生活で言えば、例えば、肉ばかり大量に食べて、しかも大量に捨てて、車だけで移動し、運動不足で病気になるようなライフスタイルよりも、バランスの良い適量の食事をとり、適度に歩いて健康に過ごした方が、自分にとっても社会にとっても良いのですから、それを目指して損はないのではないかと思うのです。ビジネスの世界でも、同様のことが言えるでしょう。

「1.5℃目標」を全力で、前向きに、かつ賢明に（つまり持続可能性とのトレードオフをうまく制御しながら）目指せばよいのではないのでしょうか。なにせ、温暖化を1.5℃未満に抑える「努力を追求する」ことに、国際社会はすでに合意しているのですから。

報告します!

夏休み省エネチャレンジ2018

今年度も京都府からの委託を受けて、小学生とその家族が夏休みの1週間省エネに取り組む「夏休み省エネチャレンジ」を実施しました。

2003年から始まり16回目の今回は、パリ協定や再生可能エネルギーなど、将来の脱炭素社会づくりを見据えた内容も盛り込みました。

ここでは、結果と児童や保護者の感想をご紹介します。

＼ 広報にご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。／

参加世帯数 **17,916** 世帯 学校参加数 **138** 校

2018年12月8日

「学校参加キャンペーン」表彰式を開催しました。



夏休み省エネチャレンジにおいて、参加率の高い小学校を優秀校として表彰する「学校参加キャンペーン」を実施。京都環境フェスティバル2018のステージイベントで表彰式を行い、京都府知事からの賞状と、特賞として企業から環境学習教材が送られました。

児童の感想

たいようのひかりをでんきにかえられるのがびっくりしました(1年生)

今年の夏すごく暑くて地球温だん化だと感じます。自分にできる取り組みをこれからもしたいと思います(3年生)

車に乗ってばかりじゃなくて、歩いてみたり、自転車にのってみたりするといつもとはちがう風景に見えたり大発見をするかもしれないということが分かりました(3年生)

保護者の感想

このチャレンジを通して、普段あたりまえのように使っているエネルギーの大切さを家族で再確認できよかったです(1年保護者)

電力メーターを毎日見に行ってエアコンを使っていない日と使った日で全然メーターの動きが違っていると驚いていました。この気付きが今後の学習やエコにつながると思います(3年生保護者)

地球温暖化にとっても興味をもってくれました。部屋の電気を消したり、テレビの時間をさめたり、自分からすすんで省エネを心がけています。親がとってもおどろいています。チャレンジしてよかった!!(3年生保護者)

優秀校 (参加児童率)

児童総数100人未満の部

綾部市立東綾小学校、綾部市立西八田小学校、綾部市立東八田小学校、綾部市立物部小学校、宇治市立笠取第二小学校、亀岡市立西別院小学校、木津川市立恭仁小学校、京都市立花背小中学校、相楽東部広域連立笠置小学校、福知山市立菟原小学校(参加児童率100%)

児童総数 100人以上400人未満の部

城陽市立深谷小学校
(参加児童率98.9%)

児童総数400人以上の部

長岡京市立神足小学校
(参加児童率100%)
木津川市立城山台小学校
(参加児童率100%)

特賞受賞校

※優秀校が複数の場合は抽選で決定

大阪ガス賞／燃料電池実験セット

綾部市立東八田小学校
(児童総数100人未満の部)

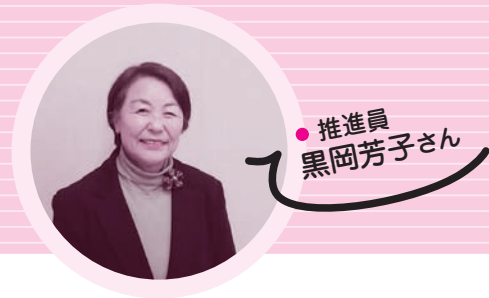
京セラ賞／太陽光発電体験キット

城陽市立深谷小学校
(児童総数100人以上400人未満の部)

ホリモク賞／京都府産ヒノキ製おんだんか ぼうしどうぶつしょうぎ10個セット

木津川市立城山台小学校
(児童総数400人以上の部)

食に関連する温暖化対策や地域活動に力をいれている黒岡さん。日々の活動で大切にされていることをお聞きました。



きっかけは婦人会での活動

「環境活動のきっかけは婦人会（現 宮津市地域女性の会）での水質改善活動。昔はみんな婦人会に入るのが普通だったから」と謙虚に語る黒岡さん。当時の婦人会では、阿蘇海をきれいにするため、鍋の掃除用ゴムベラの配布や、生ごみ肥化普及などの活動を実施していました。活動を継続しているうちに行政との協力も進み、だんだんと実を結んでいきました。こうした中で、黒岡さんは2005年に推進員になります。

食を通じて地域を元気にしたい

推進員研修会で、食べ物の地産地消が温暖化対策にもつながるという「フード・マイルージ」の考えを知りました。「新鮮な地元のものを食べることは、おいしくて、安心安全で、温暖化対策にもなる」と聞き、地元の食べものの価値を改めて発見しました。それからは、産地情報を確認するようになり、畑も始めました。「丹後にはおいしいものがあります！」と黒岡さんは自信を持って言います。

宮津市地域女性の会は、京都丹後鉄道の岩滝口駅にて、10年以上前から毎月1回のペースで「ほっとサロン」という喫茶コーナーを開催しています。ここでは、地元食材を使った手作りケーキやうどんを提供し、地元野菜も販売しています。「一人の時間が多いお年寄りの方に来ていただき、地域の人と出会う機会を増やしたい」という思いが「ほ

っとサロン」のきっかけだったとか。「最近の若い方は、仕事に子育てにと、とても忙しい。ちょっとした工夫や段取りでおいしい料理を手軽に作るコツを知ってほしい。そして地元のおいしいものをおいしく食べて、地元の良さを知ってほしい」と黒岡さんは語ります。

エネルギーの地産地消の担い手育成も

12月16日には、宮津市地域女性の会主催の「餅つき大会」で、再生可能エネルギー工作教室を開催。季節にあわせて、太陽光発電の電気をためて暗くなると光る「ソーラークリスマスツリー」を作りました。もちろん、単なる工作教室に終わらず、地球温暖化問題の講座も実施。食べ物だけではなく、エネルギーの地産地消を担う次世代の人材育成にも取り組んでいます。

暮らしに近いところで温暖化対策と地域を元気にする活動をされている黒岡さんは、今日もすてきな笑顔で動いています。



ソーラークリスマスツリーの工作に取り組む子どもたち



■ 京都環境フェスティバル2018にブース出展しました！（12/8、9 京都パルスプラザ）

今回は「宅配便の再配達を減らせ！」をテーマに展示やマト当てを行いました。マト当ては、7つの中から「再配達につながってしまう行動」を見つけてやっつけるというもの。子どもは大人に相談しながら、どのマトを狙うか一生懸命考えていました。アンケートも行い、再配達の増加が温暖化につながるということをたくさんの方にアピールできました。

また、今年も省エネ普及ネット・京都と連携して「家庭の省エネ相談所」と「クールチョイス相談所」を実施。2日間で合計241名もの方にご参加いただきました。

マト当てコーナーでは、「指定した時間に家にいない」「コンビニ受取や営業所受取を利用する」といった宅急便の再配達に関連する項目のマトを用意しました



■ 宅配便「再配達削減チャレンジ！」実施について

アンケートの回答は5分程度です。
ぜひご協力を！

当センターは、12月の地球温暖化防止月間に合わせて宅配便「再配達削減チャレンジ」を呼びかけ、パンフレット配布など情報発信を行いました。この12月だけに終わらず、今後も引き続き再配達問題についての取組を続けていきたいと考えております。個人的にできること・職場受け取りなど事業所でできることについて、引き続きご協力をお願い致します。

なお、実際に再配達削減チャレンジをされた方は、ぜひアンケートにご協力をお願い致します。



■ 京都府地球温暖化防止活動推進員研修会を開催しました

第2回「SDGsと温暖化対策」

研修の前半は、龍谷大学の的場信敬教授に「SDGsについて」「SDGsと推進員活動との関連について」ご講演いただきました。後半は、SDGs達成につながる京都の取組事例を紹介したあと、これから進めていきたい温暖化対策について推進員さん同士で話し合っていました。参加された推進員さんからは「地域活動の中にも17の目標が関わっていることが分かった」「環境、社会、経済の3要素を一緒に考えて対応するという考え方を知ることができ良かった」「それぞれの目標はバラバラではないことが分かった」等の感想が。

9月25日（火）南部会場には70名、10月4日（木）北部会場には23名の方にご参加いただきました。



第2回推進員研修会(南部)の様子

第3回「推進員活動 実践事例報告会」

11月27日(火)に南北合同で実施し、71名の方にご参加いただきました。実践事例として7名の推進員さんにご自身の活動や所属されている団体の活動について発表いただきました。



金澤良彦さん

【宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議 (eco ット宇治)】

何度もやってきた台風による延期にも負けず、ついに実施！水車を手作りして「宇治川での発電実証実験プロジェクト」。



大倉文子さん

【桃山エコ推進委員会】

学区のメンバーが集まり、小学校での出前授業・地域のおまつり・防災イベントなどで、省エネ&再エネ&環境教育を楽しみながら実施。



河村泰三さん

【京都電工株式会社・京都中小企業家同友会】

まちの電気屋さんとして省エネ製品を広め太陽光発電を設置しながら、京都中小企業家同友会では同じ経営者仲間とエネルギーシフト等を学び実践。



中山彩子さん

【長岡京市ステップアップ・チャレンジ】

賃貸のマンションでも、はさみやカッター等を使った工作で、快適省エネ生活が実現！実体験に基づいた省エネ情報は、行政の広報誌に毎月掲載されるように。



古家野辰也さん

【市民共同発電をひろげる城陽の会】

個人宅おひさま発電ゼロ円システムで、地域に再エネを設置！講演会などでも省エネ活動・再エネ利用を情報発信。



森脇浩さん

【まいづる環境市民会議】

飛行機パイロットだったが、地元に戻って地域協議会に参加。小学校等での出前授業など、地球温暖化防止活動を実践。「地域活動は一つの冒険」。



味田佳子さん

【丹後の豊かな環境づくり推進会議】

丹後地域2市2町の住民・事業者・行政が連携。子どもや子育て世代を対象に、温暖化問題だけでなく地域の魅力を参加型・体験型で伝える。

事例発表の後は、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科の平岡俊一先生の、コメントとミニ講義です。推進員活動では、環境だけでなく経済や社会など、様々な分野を横断した活動が展開されていること。これからも、それぞれの地域がもっている課題に、温暖化対策・脱炭素の要素をいかにつなげながら、解決し豊かな地域を作り出していけるのか。私たちの活動は、「生活の質の向上」「元気な地域づくり」に繋がっていることを、もっとアピールしていく必要があるということ、等をお話していただきました。



第3回推進員研修会の様子

募集
しています

第9期

京都府地球温暖化防止活動推進員

京都府地球温暖化防止活動推進員とは

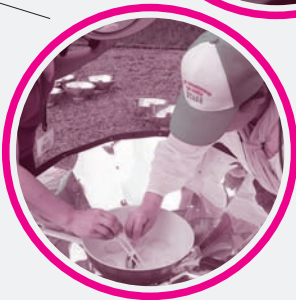
「脱炭素社会」の実現に向け、京都府内で地球温暖化を防止するための活動に取り組むボランティアです。

地域のイベントやおまつりでの啓発活動、小学校への出張授業、・・・などその活動内容は様々です。持続可能な社会づくりに向けて活動してみませんか。ご興味のある方はぜひご応募ください！

イベントで省エネのアドバイスや、再生可能エネルギーの実演展示



小学生を対象に出張授業



応募資格（1と2の両方を満たす方）

- 1 満18歳以上（2019年4月1日現在）で、府内に在住、在勤又は在学の方
- 2 地球温暖化防止に関する活動を自主的に行える方

web

募集人数

300名程度

詳細は京都府ホームページへ

<http://www.pref.kyoto.jp/tikyu/suishinin09.html>

委嘱期間

2019年4月～2021年3月までの2年間

応募方法

2019年1月31日締切

応募申請書に必要事項を記入の上、郵送、FAX、またはEメールで申込み

申込・問合せ先

京都府環境部地球温暖化対策課
〒602-8570
京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
TEL：075-414-4830
FAX：075-414-4705
E-mail：tikyu@pref.kyoto.lg.jp

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

（平成31年新春号 平成31年1月発行（年4回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
（特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議）
理事長：郡嶋 孝

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町41番3
TEL：075-803-1128 FAX：075-803-1130
URL：http://www.kcfca.or.jp E-mail：center@kcfca.or.jp
Facebook：https://www.facebook.com/kcfca

編集：木原浩貴 川手光春 浅井薫 三枝剛 河田理恵子 根岸哲生

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
年会会費 正会員（個人）：2,000円 正会員（団体）：3,000円
準会員（個人）：2,000円 準会員（団体）：3,000円
賛助会員：10,000円
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率70%再生紙に、自然エネルギー（風力発電31.5kWh）を使用して印刷しました。

70

古紙配合率70%再生紙を使用しています

